

白川静のことば
《4》



金子都美絵・画

のりとの器には、のりとの文が入れられている。
おそらくすでに、文字にかかっているものであるう。
祈りをこの器中におさめておくことは、その祈りの機能
がたえずはたらくということである。

文字が作られた契機のうち、もつとも重要なことは、
ことばのもつ呪的な機能を、そこに定着し永久化する
ということであった。

ことばとしての呪言は、時間のなかにあることもでき
ず、また空間を支配することもできない。しかしそれ
を文字に表記し、書きとどめておくことによって、
その呪能は断絶することなく、また所在の空間を支配
することができる。そしてこれを神木に著けて、神の
前に掲げておけば、神はいやおうなく、いつもその祈
りに注意していなければならぬ。

『中国古代の民俗』講談社学術文庫 p84

